

## 授業科目 評価学演習

【担当教員名】 地 神 裕 史		対象学年	2	対象学科	理学
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60 (検査測定法: 15)
【概要・一般目標: G10】 中枢神経疾患における随意運動の障害に対する検査方法を修得する。 また、様々な評価によって得られた対象者の姿勢や異常動作の原因を運動学・病態学的に解釈し、それを正しく記載する能力を修得する。					
【学習目標・行動目標: SB0】 1. 動作分析に必要な解剖学・運動学用語を正しく使用できる 2. グループワークに積極的に取り組める 3. 片麻痺運動機能検査の意義を理解し、正しく実施できる 4. 協調性検査の意義を理解し、正しく実施できる 5. 筋トーン検査の意義を理解し、正しく実施できる 6. 姿勢評価の意義について理解し、正しく実施できる 7. 動作分析(基本動作)の意義について理解し、正しく実施できる 8. 動作分析(歩行)の意義について理解し、正しく実施できる 9. 動作分析の結果を正しく記載することができる 10. 診療記録(SOAPノート)の記載方法を理解できる					
回数	授業計画・学習の主題	SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	動作分析に必要な解剖学・運動学用語	1	小テスト・演習 地神、担当: 地神 裕史		
2	片麻痺運動機能検査	2, 3	演習(グループ) 地神、担当: 地神 裕史		
3	協調性検査	2, 4	演習(グループ) 地神、担当: 地神 裕史		
4	筋トーン検査	2, 5	演習(グループ) 地神、担当: 地神 裕史		
5	姿勢評価	2, 6	演習(グループ) 地神、担当: 地神 裕史		
6	動作分析 基本動作	2, 7, 9	演習(グループ) 地神、担当: 地神 裕史		
7	動作分析 歩行	2, 8, 9	演習(グループ) 地神、担当: 地神 裕史		
8	診療記録の記載方法	10	演習(グループ) 地神、担当: 地神 裕史		
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)				決定次第連絡する	
参考書	障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考—PBLで考え進める 考える理学療法 評価から治療手技の選択 中枢神経疾患編 理学療法学生のための症例レポートの書き方	嶋田智明編 丸山仁司 編 他 宮原英夫 監修	南光堂 文光堂 朝倉出版	2007・6,500円 2006・5,985円 2004・3,360円	
その他の資料	プリント				
【評価方法】 出席、実技試験、定期試験(筆記)、その他		【履修上の留意点】 毎回、実技できる服装で出席すること。			